

観光情報Webサイトのアクセス状況を可視化する

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：観光地からの情報発信と観光客のニーズへの適応に関する調査

研究代表者：宮古短期大学部 大志田憲

課題提案者：一般社団法人宮古観光文化交流協会

研究メンバー：高岩将洋（一般社団法人宮古観光文化交流協会）

技術キーワード：観光資源、情報発信、情報閲覧分析

▼研究の概要

近年、観光客の情報収集はWebサイトやSNSなどのデジタル媒体に移行しており、地域の観光関連団体が提供するWebサイトの視認性や情報の明確性は、観光行動に影響を与える可能性がある。本研究では、宮古観光文化交流協会（以下、観光協会）のWebサイトを対象に、同協会と連携してGoogleアナリティクスによるアクセス分析を実施した。

▼研究の内容

観光協会のWebサイトから、ユーザ数、セッション数、ページビュー数などデータをCSV形式で出力し、アクセスデータ分析を行った。

- 調査対象Webサイト
宮古観光文化交流協会
- アクセスデータの取得期間
2024年4月1日～2025年3月31日



図1 宮古観光文化交流協会Webサイト

▼研究の成果

取得したアクセス状況をもとに、

- 年間での観光協会Webサイトへのアクセス状況
- 曜日ごとのアクセス状況
- ランディングページの状況
- 新規ユーザとエンゲージメント率
- 主要ページとその関連ページのアクセス状況
- 下半期におけるイベント紹介ページ状況の分析
- 主要ページにおけるセッションとその参照元

等の可視化をおこなった。祝日・土日と平日間等でのアクセス分布や浄土ヶ浜のシーズン期間以外の秋～冬季期間における鮭まつり等各種イベント情報へのアクセス、またそのイベントポータルサイトのアクセスを可視化することができ、従来のサイト全体へのアクセスだけではなく、閲覧ユーザの行動パターン等の分析を行うことができた。



図2 Webサイト年間アクセス数

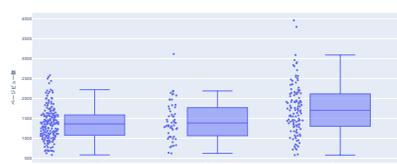


図3 祝日・土日、平日等のアクセス分布

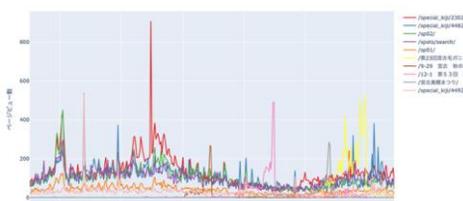


図4 主要ページのアクセス数

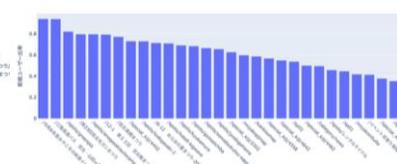


図5ランディングページの新規ユーザ比率



図6 新規ユーザ率とエンゲージメント率



図7 主要ページの参照元

▼おわりに

沿岸部は内陸部と比較して観光客数が少なく、豊かな自然資源や体験型コンテンツが存在するにもかかわらず、情報発信が十分に行われていない点が課題とされている。また、観光検討者がどのような情報に関心を持ち、どの媒体から取得しているのか等の関連する状況把握も不十分である。今回の協働研究では、従来のWebサイト全体のアクセス数やユーザー数に加え、個別イベントページの閲覧状況、新規ユーザー率、エンゲージメント率などを指標として取り上げ、閲覧者の行動パターンを数値的に可視化を行なった。今後の戦略的な情報発信に資する知見を得ることが可能となった。